

中学生

11月の作文課題

課題①～④から自由に選んで作文を書きましょう。(400字以内)

★今月のねらい★

◆季節感を表現する

◆コミュニケーションを考える



作文の締め切り日は、
11月
__日です!

締め切りを過ぎても添削はできますから、決してあきらめずに提出してくださいね。

日本作文指導センター発行 (2012)

① 「あと二カ月」

茶の間のカレンダーは、二カ月分が一緒に載っているの、残った一枚だけが壁につるさえ、所在なげにぶら下がっています。もう一年の六分の五は、去ってしまいました。風にさらわれるように過ぎた日々、そして残された日の少なさを思うと、さびしさと同時にあせりを感じてしまいます。カレンダーに残された二カ月を、これからどう埋めていくか、考えてみてください。



② 「落葉」

一口に落葉と言っても様々です。柳や桐の葉は初秋から落葉し、秋の訪れを知らせるものとして、人々の風雅の心を誘います。柏やくぬぎは、枯葉をつけたまま冬を越し、春の新芽の後に葉を落とすので、葉守の神がいるなどと言います。そして美しい紅の葉を落とす晩秋の木々、あるいは朽葉となつていつまでも冬を舞う落葉もあります。散り、積もった様子を、文にしてみましょう。



③ 「無言社会」

「寒いね。」と話しかければ、「寒いね。」と答える人のいるあたたかさ。たしか俵万智さんの歌だったと思います。最近、会話がなないのをさびしく思う人が多いと聞きました。スーパーの買い物も会話がないし、レジ袋不要の場合も、口で言わないでカードを差し込むが増えています。道を尋ねるにも、地図を無言で指すだけ。お礼も言わず去っていくそうです。まるでロボットの国のようだと思いますか。



④ 高校受験用

次の文章を読み、あなたの考えを四〇〇字以内で書きなさい。題は、自分でつけること。

ものすごく馬鹿げたことのようなことが私の存在を支えているように思います。例えば、家に帰ったら「おかえり」と言うてくれる人がいるとかね。それから、家で寝ころんでも出ていけと簡単に言われないうか(笑)。皆さん笑われますけどねえ、家に帰ってごろんと寝ころんだら、ちゃんと座りなさいとか父親として行儀良くふるまえなんていう人がおいたら、たまらんとおもいますねえ。要するに、僕という人間が割合に勝手なことをしても、僕の勝手な存在というものを入れこんでる空間といひますか場所といひますか、そういうものがある。もつと言いますと、電車の駅おりて家まで帰ってくる間の景色がいつも同じ景色やいうのが大事なことやないでしょうか。帰ってくる時に、家が三軒ほどぼうつとなくなつたり(笑)、家に帰つてみたら二階のはずやつたのに、急に五階になつたり(笑)。で、そんなことになつたらものすごく不安になると思ふんです。

あまり気がついておられないかも知れませんが、松の木が一本はえてるといふだけでもたいしたことでは、ね、いつも通る道に同じ松の木があるなんていうことは実はすごいことなすねえ。やっぱり僕という存在を支えてくれる。

(河合隼雄『対話する人間』より)